

四国の離島航路船

2020.5.8 池田良穂

四国に上陸して大阪に戻る途中で、八幡浜と観音寺の港に寄って離島航路の小型船を追いました。

三崎港でフェリーを降りてから、佐田岬の尾根沿いの道路をドライブして、岬の付根に位置する八幡浜港に寄りました。ここには宇和島運輸と九四オレンジフェリーのターミナルがあり、これまでも何度も来ていましたが、同じ港の一隅にある、大島に通う離島航路の乗り場には行ったことがありませんでした。この航路に就航する船の写真もなかったので、寄って撮影することにしました。1日3便で、航海時間は22分。運航するのは田中輸送で、40総トンの「たいゆう2」と、予備船として「ニューたいゆう」を所有しています。

さて八幡浜港に到着してみると、港の再開発が進み、みなと交流館、どーや市場と名付けられた施設、レストラン、カフェなどができていました。そして隣接する緑地公園の一角に田中輸送の新しい乗り場が整備されていました。

ちょうど昼時だったので、どーや市場に隣接する食堂で海鮮丼を食べて、コーヒーを飲みながら待つこと1時間。「たいゆう2」が島からの第2便として、14時少し前に戻ってきました。栈橋には郵便局の車が待っていて、島からの郵便物を受け取っていました。

観音寺港からは、沖合の伊吹島に市営の貨客船が就航しています。毎日4便で、航海時間は25分で、昨年、新しいNEW IBUKI IIが就航しました。113総トンで、17ノット。建造は小型客船建造では有名な瀬戸内クラフトです。乗り場で入手した同船のパンフレットに、同航路の「船舶の変遷」が記載されていました。最初の定期船は、大正3年に就航した8トンの木造焼玉エンジン客船「第1号伊吹丸」で伊吹区の経営だったそう。昭和24年からは村営、31年からは市営航路になりました。前船は平成6年に建造された「ニューいぶき」で、137トンのアルミ船。それまでの鋼船の12ノットから17ノットに高速化されています。そして25年ぶりの11代目の貨客船がNEW IBUKI IIです。パンフレットも、船体の船名表示もローマ字になっていますが、船名登録もローマ字でOKになっているのでしょうか。



八幡浜港のフェリーターミナルには宇和島運輸の「えひめ」が入港していました。



港に隣接して公園が整備されていました。中央に見えるビルが四国～九州航路のフェリーターミナルです。



公園に面して駐車場と「みなと交流館」と商業施設が整備されていました。



公園の一角に、田中輸送の大島行の新しい切符売り場がありました。そのすぐ前に浮棧橋があり、予備船の「ニューたいゆう」が泊まっています。



大島通いの田中輸送の浮棧橋では、郵便車が船の到着を待っていました。



14時少し前に「たいゆう2」が大島から到着しました。



観音寺港の切符売り場と停泊する市営船 NEW IBUKI IIです。



港の出口付近で出港を待ちました。伊吹島に向けて出港した NEW IBUKI II の姿です。船尾に、貨物を積載するためのクレーンが装備されています。